

## 第 55 回宇宙安全保障部会 議事要旨

### 1. 日時

令和 5 年 2 月 20 日（月） 10：15～11：45

### 2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井満委員、石井由梨佳委員、遠藤委員、白坂委員、新谷委員、中須賀委員、名和委員

#### (2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西局長、坂口審議官、加藤参事官

#### (3) 関係省庁

内閣官房国家安全保障局 徳永内閣審議官

防衛省防衛政策局戦略企画課 田邊課長

### 4. 議事要旨

(1) 議題 (1) 「宇宙の安全保障構想（案）の検討に係る論点整理」について、内閣府から資料に基づき説明をした後、次のような議論があった。（○：委員からの意見等）

○2033 年の宇宙の安全保障に関する将来像について、日本がどうしていくのかを国内のみならず海外に向けて明確に発信する必要がある。

○構想に示すべき総合的な取組の方向性として、「宇宙からの安全保障」、「宇宙における安全保障」、「我が国の宇宙作業の支援・育成」という 3 つの柱は良いのではないか。また、記載する範囲として輸送等といった分野の記載についても検討が必要である。

○民間技術の活用や研究開発について、JAXA の活用により防衛省側のニーズとのマッチングの判断は重要である。一方、JAXA のみでは判断できない技術もあり、人材の交流を含めた官側や民側の双方による知見の蓄積が必要である。

○スピード感を持った研究開発が重要であり、今までの仕組みに捉われず、官民の契約の在り方について新しい発想により取り組んでいくことが必要である。その際、内閣府

が宇宙政策全般をコントロールしつつ、事業者側が請負契約で負担を被り、事業に対して躊躇しないよう、効率的・効果的な政策を実現することが重要である。

○民間事業者のサービス調達において、現状の契約の仕組みでは高い秘匿が求められる点もありハードルが高く、その他、国内外の民間事業者同士の協力の観点も問題となる。事業者の育成や連携のため、契約の仕組みを考え直していく必要がある。

以上